令和７年度「環境保全報告書」

キリングループは、「次世代につなげる地球環境」として、以下の取組みを実施し、「水資源」「生物資源」「容器包装」「地球温暖化」の各項目についての取組みを実施しています。また、外部各種団体等から高い評価を得ており、「地球環境保全」に努力しています。

キリンビール株式会社　神戸工場

１．目標達成度

① 2025 年度の環境事故ゼロを達成した。

② 環境マネジメントの実行により、廃プラは、前年 2024 年度と比較し 24.1ｔ減少している。

③ 次年度以降も継続し、①環境事故ゼロ、近隣ご指摘ゼロ ②省エネ（エネルギー・用水）原単位目標達成、③汚泥処理費用の削減を課題としてしっかりと対応を図る。

④ 用水使用量削減への取り組みとした「中水高度処理設備」は継続して運用している。

⑤ 太陽光発電設備の増設設置工事（300kW）を完了、2025 年 5 月から稼働を開始。2021 年 3 月に本格稼働した設備に加え、更なる CO2 削減に貢献した。

２．環境保全計画書に定めた管理目標値等の達成状況、その増減に関する評価、説明等

	管理目標値等の達成状況
大気汚染 防止対策	◆ 「大気汚染防止法」及び大気汚染防止に関する神戸市条例等の法令の規定を遵守している。 ◆ ばい煙発生施設からの排出規制に関わる自主管理基準を作成し、維持管理できている。 ◆ 環境負荷の少ない都市ガスを燃料として使用している。
水質汚濁 防止対策	◆ 「水質汚濁防止法」及び水質汚濁防止に関する神戸市条例等の法令の規定を遵守している。 ◆ 公共下水道に排出する排出水の水質に関わる自主管理基準を作成し、維持管理している。 ◆ 有害物質について可能な限り使用量及び排出量を把握し、公共下水道へのこれらの排出削減に努めている。 ◆ 有害物質等による土壌及び地下水汚染の未然防止に努めている。
騒音 防止対策	◆ 「騒音規制法」及び騒音防止に関する神戸市条例に定める基準を遵守している。 ◆ 周辺地域の環境基準の達成と維持に支障がないように努めている。

振動 防止対策	◆ 「振動規制法」及び振動防止に関する神戸市条例に定める基準を遵守している。
悪臭 防止対策	◆ 「悪臭防止法」及び悪臭防止に関する神戸市条例に定める基準を遵守している。 ◆ 自主管理基準を作成し、悪臭防止に努めている。
産業廃棄物 の適正処理 ・発生抑制	◆ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の規制を遵守し、廃棄物の適正処理を行っている。 ◆ 有害物廃棄物の発生量を抑制するとともに再利用を促進している。

※上記の管理目標値等の達成状況については別途神戸市様にその都度報告書を提出している。

３．公害防止対策及び地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

	分野	項目	達成状況等
1	廃棄物の適正処理 ・減量	廃棄物の分別回収、廃棄物発生量の削減	廃棄物の分別回収の周知徹底、廃棄物の発生抑制・再利用の継続している。
		副産物・廃棄物の再資源化	副産物・廃棄物の再資源化率１００%を維持している。
		空缶、空壜、紙他の分別回収	副産物・廃棄物の再資源化率１００%を維持している。
		コピー用紙使用量の削減	コピー用紙使用量削減に取り組み、両面コピーを推進している。
2	グリーン調達	グリーン購入の実施	事務用品のグリーン調達を継続している。
		FSC 認証用紙の利用	Ｈ２７年度から、ＦＳＣ認証紙のコピー用紙を使用している。
		プリンタトナーカートリッジの再生利用	プリンタトナーカートリッジの再生利用を継続している。
3	環境負荷の少ない資源、材料、燃料の選択	良質燃料の使用 FSC 認証用紙の利用	都市ガス使用を継続している。 ６缶パックの紙やコピー用紙などにＦＳＣ認証紙を使用している。
4	自動車対策	積載量の適正化	指導の徹底・維持をしている。
		エコドライブ・アイドリングストップの推進	指導の徹底・維持をしている。

5	特定フロン	特定フロン類使用設備の適正管理	管理の徹底・継続をしている。
		特定フロン使用機器の適正廃棄	管理の徹底・継続をしている。
6	環境に配慮した施設整備	緑地の整備	雑草除去を計画的に実施し、植生の向上を図る。
		レフュジアビオトープ＊１維持管理	カワバタモロコ他の棲める環境の維持をしている。（三田地域に棲む絶滅危惧種）
7	従業員教育	環境保全に関する社員研修	社内研修を通して環境方針や活動の理解と意識の高揚をはかっている。
		キリンビール環境報告書、社内・場内報等での社員の啓発	社員への周知の実施
8	地域社会への参画	工場・周辺地域の清掃活動	水源の森活動として、千刈ダム現地の涵養活動を行った。
9	環境マネジメントシステムの充実	自主宣言型ＩＳＯ１４００１＊２の維持	自主宣言型移行後も、工場内及び社内工場間の監査を実施している。

※１　レフュジアビオトープ（潜在生物復元型ビオトープ）；

つい３０年前までは、ごく普通であった里のため池とそれに隣接した里山を工場敷地のビオトープ池を中心に再現し、開発以前に生息していた或いは潜在分布域である生物群集の復元を、最上限の人為を導入して促す。更に、絶滅が危惧されている里山やため池に生息する「希少種」の一時的な避難場所としての機能を同時に果たす。

※2　ＩＳＯ１４００１について；

キリンビールは、１９９７年３月２１日北陸工場で、食品業界に先駆けて、ＩＳＯ１４００１環境マネジメントシステム（ＥＭＳ）規格の認証（ＪＳＡＥ００７）を取得した。

２００８年には、各工場と本社のＩＳＯ１４００１環境マネジメントシステム（ＥＭＳ）を統合し、適用範囲を全国各地の営業事業所、物流事業所に拡大し、ビールその他アルコール飲料等の研究開発、商品開発、資材調達、生産、物流および販売促進に係る全ての領域をカバーする統合認証をビール業界では初めて取得した。また、２０１４年からは、「自主宣言型」に移行し、自主規格に沿った環境活動を実施している。

４．キリングループ全体の取り組み

最新情報は、下記リンク先にてご確認ください。

環境報告書 | IRライブラリ | キリンホールディングス (kirinholdings.com)

以上